

2018 年度会員御希望の方へ

申込日 年 月 日

龍谷大学福祉フォーラム入会申込書

龍谷大学福祉フォーラムに、下記のとおり入会申込みをします。

フリガナ	
お名前	
ご住所	〒 -
電話番号	
E-mailアドレス	
ご職業	
属性	該当する□にチェックをしてください。 <input type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 本学卒業生 <input type="checkbox"/> 本学学生
図書館利用カード	該当する□にチェックをしてください。 <input type="checkbox"/> 希望する <input type="checkbox"/> 希望しない
備考	ご質問・ご要望などありましたらご記入ください。

FAX: 077-543-7771

個人情報の取り扱いについて

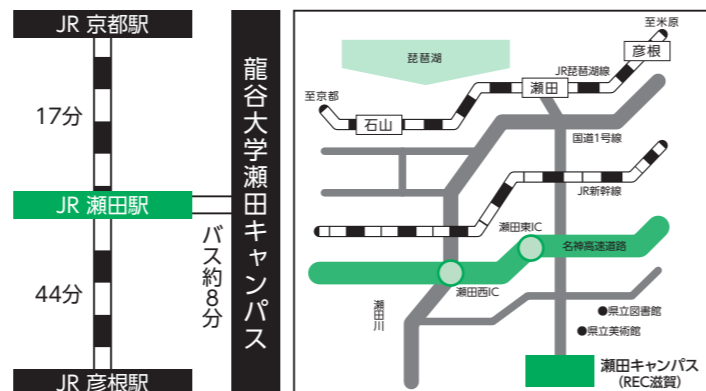
上記で伺いました個人に関わる情報は、個人情報保護法及びこれに準拠した学内の取り決めに従い、厳正に情報を管理し、本学事業以外には利用いたしません。

お問い合わせ

龍谷大学福祉フォーラム事務局 (REC 滋賀)

〒520-2194 滋賀県大津市瀬田大江町横谷 1-5
 Tel 077-544-7291 Fax 077-543-7771
 E-mail r-fukushi@ad.ryukoku.ac.jp
 ホームページ <http://rec.seta.ryukoku.ac.jp/fukushi/>

JR 琵琶湖線「瀬田」駅下車
 帝産バス「龍谷大学」行き(約8分)
 名神高速「瀬田西IC」(大阪方面から)
 「瀬田東IC」(名古屋方面から)より
 文化ゾーン方向へ車で約5分【駐車場有】
 ※駐車台数に限りがあります。



福祉フォーラム通信



福祉フォーラム2017

『障がいのある人への意思決定支援 ～オーストラリアの実践から学ぶ～』開催報告



日時：2017年9月9日(土)
 会場：本学瀬田キャンパス
 講師：水島 俊彦氏 (SDM-Japan 代表)
 実践報告：シェア・ニコルソン氏 (SDM Original Trainer)
 デビー・ノーレス氏 (SDM Trainer)
 コーディネーター：樽井 康彦 (本学社会学部准教授)

9月9日(土)、瀬田キャンパスにて、福祉フォーラム2017「障がいのある人への意思決定支援～オーストラリアの実践から学ぶ～」を開催しました。SDM-Japan 代表の水島俊彦氏をお迎えし、『オーストラリアの意思決定支援から学ぶこと～わが国の実践にどう生かすか～』をテーマに、ご自身の活動経験および南オーストラリアでの実践者の経験をもとにご講演いただきました。

水島氏は講演の中で、「障がいを持つ方を支援事業者がコントロールすることは、その人の人生を盗むような結果になる。障がいのあるなしにかかわらず、誰もが、自信と誇りをもって、内なる希望に基づく意思決定と可能性を追求できる社会を目指していきたい」と力強くご講演いただきました。続いて、南オーストラリアの実践者であるシェア・ニコルソン氏 (SDM Original Trainer) とデビー・ノーレス氏 (SDM Trainer) から「S.A-SDM (支援付き意思決定モデル) ～南オーストラリア

における意思決定支援の実際」について実践報告をいただきました。その後、本学社会学部 樽井康彦准教授がコーディネーターとなり、「当事者主体の意思決定支援とは」をテーマにシンポジウムを開催しました。

(参加者の声)

- ★日本ではなかなか難しいところを、実際に実践されていることが聞いて、今後の活動の参考になった。
- ★日本の意思決定ガイドラインの問題点について、分かりやすく説明して頂けたと思います。
- ★日々支援をする中で、引っかかっている部分がすっきりする事が出来ました。

第15回共生塾

『地域で活躍する人材の育成について』開催報告

日 時：2018年1月13日(土)
 会 場：コミュニティセンター大宝東
 講 師：岡野 英一 氏 (本学社会学部教授)

1月13日(土)に栗東駅前のコミュニティセンター大宝東にて、第15回共生塾「地域で活躍する人材の育成について」を開催しました。今回の共生塾は、2017年7月に本学と包括協定を締結した滋賀県栗東市と共催で実施しました。

2017年5月25日に国会を通過した「地域包括ケアシステムの強化のための介護保険法等の一部を改正する法律案」により、今後の地域福祉のあり方が大きく変動していくと考えられており、実際に国が目指している『我が事・丸ごと』地域共生社会』の内容を中心に、地域の方々と一緒に考えることができる場を提供しました。

今後の福祉全般では、地域住民の活動や民生委員・児童委員、保護司などの役割とともに、地域住民の主体的な取り組みが期待されています。一方、こうした中においても行政や福祉専門職の役割もきわめて重要であり、そうした関係者がいかに連携して進めていけるのかも重要なポイントです。そこで今回の共生塾では、本学社会学部 岡野英一 教授が『我が事・丸ごと』と栗東市の地域福祉』と題して講演し、その後、実際に栗東市で

活躍する方々に活動の事例報告を行っていただきました。

当日はたくさんの方にお越しいただき、地域の皆様と、地域福祉のあり方について一緒に考える良い機会となりました。

(参加者の声)

- ★地域と学生が交流し、関係を持つことで、今後の地域・滋賀・日本を担っていく人材が育っていくような感じを持ちました。
- ★ボランティア意識の高い方々のお話を聞かせて頂き感動しました。
- ★とても分かりやすく報告を頂き、ありがとうございました。若い人たちの活動は心強く、頼もしく思います。



第18回専門セミナー

『各市町家庭児童相談室・県子ども家庭相談センター 共同研修～語りから未来を紡ぐ～』開催報告

日 時：2017年1月26日(木)
 会 場：本学瀬田キャンパス6号館

1月26日(木)、福祉フォーラムでは、第18回専門セミナー「各市町家庭児童相談室・県子ども家庭相談センター共同研修～語りから未来を紡ぐ～」を瀬田キャンパス6号館にて開催しました。

滋賀県の市町家庭児童相談員および児童相談所職員がこれまでの自分の経緯を振り返り、お互いに聞き取りを行うことによって、それぞれの機関による支援を肯定的に捉える機会としました。

セミナーの参加者からは、「相手に語ってもらう仕事内容が多いので、自分が語るという事が新鮮で、日々の仕事に活かせる感覚を学びました」、「同じ分野で働いている方たちと意見を交換する場を提供していただきありがとうございました」などの感想をいただきました。



第19回専門セミナー

『子どもの貧困と支援者 - 支援を巡る戸惑いと可能性 -』開催報告

日 時：2018年3月22日(木)
 会 場：本学瀬田キャンパス6号館

3月22日(木)、福祉フォーラムでは、第19回専門セミナー「子どもの貧困と支援者 - 支援を巡る戸惑いと可能性 -」を瀬田キャンパス6号館にて開催しました。

本セミナーは、本学社会学部 山田 容 准教授を中心とする調査研究チームが行っている滋賀県内の子どもの貧困支援に関わる支援者を対象にした調査から見てきた成果を発表し、その後、実際に現場で働く支援者同士の連携を深める事を目的に開催しました。

研修の中では、それぞれの支援者が実践を通して感じていることや、他の支援者と実践から学びたいことなどを話し合いが行われ、支援者間の連携を深める良いきっかけとなりました。

